「家がいいね」第２３６号

いせ在宅医療クリニック　広報月刊紙

2024.1.5

暗くなってから大篝火が灯されて、立ち昇る火の粉を見つめ夜が更ける。過ぎ去った一年に感謝して、新しき決意を温めます。

在宅医療から照らし出されること

一人の人生の中で、医療に関わる時間は全体の中で５％も無いように思います。９５％は生活の時間と言ってもいいようです。朝から晩の大半を医療に関わる専門職の考え（いわゆるイシ頭）で実生活を差配することは、誠に逆転しています。

「医療は生活のためにこそ在る。それも最期まで」生活の場＝在宅へ拠点を移して、私も２１年経ち考える在宅の中身は変わりました。列挙します。

①「病院か在宅か」の選択ではないようです。

どっちも窮屈です。病院は短期滞在、在宅では独りぼっち。病気を抱えながら、生活しなければならない人生の時間が長くなりました。高齢者が嘆かれるように「お迎えはまだ先なのか」です。

毎日を過ごす意味を見出しつつ、病院も在宅も共に利用する相談先に、在宅ケアが位置します。

②「ちゃんと決めてくれるやろ」って誰が。

決めることが山盛りです。医療技術は進歩して、寿命も延びたので、本人決定を求められ悩むこと多々です。古い常識のさび落としが必要なのです。

③「金さえかければイイものが」って詐欺？

全国名医探しの旅や先進医療と飛び回る気力が落ちると、体力は思う以上に衰えています。頼るべきは、人の縁と地域医療の縁だと思うのですが。

④「迷惑かけないように」と思っていたんですね。

施設は予測よりも居心地が悪く、高額なのです。今住む家を工夫し過ごすのが、良い選択なのでは。

⑤「あんた専門家やろが」と言われますけど。

老いや衰えは千差万別。解決に王道はありません。知識ではなく一緒に相談する力が専門を超えます。

ケアは我が身も変えるもの

前号でも述べましたが伊勢市の在宅ケア体制は、まだ道半ばです。

当院も「家がいいね」と思う人への助力が不十分だと反省します。癌患者さんが最期まで自宅で過ごすことを、可能にしたいと思います。

生活や就労で支援を要する人への取り組みも、外来で始めました。

日々を生きる人たちが、自分の意欲を取り戻す手伝いが、ケアと思って、その窓を開けて行きます。

秋山正子さんの「暮らしの保健室」を地域で目指します。ぜひ動画もご覧下さい。→

未来が開かれたものになるためには

子どもたちが生きる場、そして時間を、私たちが身近で保障しなければ、全ては絵に描いた餅です。

人生は受継がれるもの。何度か言いますが、独り幸せに死んでいくという目標は不十分です。未来を形作れないでしょうか。

新しい仲間のお知らせ

後ろで手を挙げているぼーやの父、３７歳です。

大久保　薫（内科医師）

１月より満を持して赴任します。前職場は日赤。主に在宅医療で皆様宅にお伺いする予定です。

よろしくお願いします。

暮らしの保健室

知っておきたい
在宅ケア動画集
ぜひご覧ください！

ise home care clinic
いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薗町高向 927
電話　0596-20-8104
ファクス　0596-20-8105
メール　homecare@kr.tcp-ip.or.jp
https://isezaitaku.com

→バックナンバ閲覧可